

平成27年度（2015年度）大学院国際言語文化研究科博士課程（前期課程）  
国際多元文化専攻 入学試験問題

試験科目： 論述（問題用紙は4ページ、設問は14問あります。）

第1ページ

以下の設問1～14から2問選んで、日本語で解答しなさい。そのうち、少なくとも1問は第1志望講座・コースから選ぶこと。

多元文化論講座

1. 経済のグローバル化は今後もますます進行すると思われる。企業は企業の論理で生き残りを図るために国境を越え、その企業が生まれた国とその国民の利益を図ることが必ずしもできなくなっている。他方で、グローバル化が進展する中でも、国家や民族は自己のアイデンティティを主張することを続けている。このような複雑な状況の中で、私たちはどのような価値観の下に、どのような社会を目指すべきか、あなたの考えを述べなさい。
2. アメリカ英語という一言語による他の複数言語を排除するグローバル化が問題視され、複数の英語を独立した固有言語として認める World Englishes という考え方が徐々に力を持ち始めている。World Englishes では、アメリカ英語の適切さを正誤の判断基準とするのではなく、意思伝達の正確さを判断基準として日本人英語使用者による英語用法も可とする。World Englishes という考え方に立った場合、次の三点についてどのような問題が生じ、それに対してどのように対応すべきかを書きなさい。
  - (1) 英語用法の多様性
  - (2) 教材と学習方法
  - (3) 教授者の文化的・言語的背景

平成27年度（2015年度）大学院国際言語文化研究科博士課程（前期課程）  
国際多元文化専攻 入学試験問題

試験科目： 論述

第2ページ

先端文化論講座

3. グローバル化が進むにつれ、外来の文化とその土地のローカルな文化との関係は複雑化しており、身体文化も例外ではない。現代日本の舞踊を例にとると、バレエやフラダンス、ヒップホップなどの外来のダンスが人気を集める一方で、日本舞踊や各地の民俗舞踊も根強く踊られている。異なる身体文化が出遭った時、そこにはどのような影響関係や葛藤が生じるだろうか。時代や国・地域を限定して具体的な例を一つ挙げ、あなたの思うところを述べなさい。
4. 今日世界で起きている問題の大半は、進歩や歴史的発展がもはや終焉を迎えていることに気づきながら、それを〈自動的〉に継続せざるをえないいわゆる第一世界の人びとと、かつて西洋人が味わったのと同じ恩恵にあやかりたいと切望する第三世界の人びとの意識との葛藤のなかに見いだせる、と述べた哲学者がいる。あなたは、この意見にどのような考えを抱くか。具体例を挙げて論じなさい。

アメリカ言語文化講座

5. 北米の文学または映像作品における「旅」もしくは「移動」のテーマの意義について、具体例を挙げて論じなさい。
6. ICT (Information and Communication Technology)の語学教育での応用、またその効果について、具体例を複数挙げて論じなさい。

平成27年度（2015年度）大学院国際言語文化研究科博士課程（前期課程）  
国際多元文化専攻 入学試験問題

試験科目： 論述

第3ページ

東アジア言語文化講座

7. ある地域で話されている言葉と別の地域で話されている言葉が系統的に近い関係にありつつも言語的特徴において様々な相違を見せるとき、それらを異なる言語と見なすか同一の言語の方言と見なすかは、しばしば問題となる。異なる言語と見なすか同一の言語の方言と見なすかの基準について、中国・台湾、朝鮮半島、またはロシア・旧ソ連地域のいずれかの事例を挙げつつ論じなさい。

8. 「態（ヴォイス voice）」と呼ばれる文法事象について、中国語、朝鮮・韓国語、ロシア語の中から一つの言語を選び、論じなさい。その際、次の用語から二つ以上選んで使用すること。

【主語、目的語、動作主、受け身、結合価、格、格助詞、名詞句、階層関係、意味役割、新情報、旧情報】

ヨーロッパ言語文化講座

9. 今年の5月22日から25日にかけて実施された欧州議会選挙では、EU懐疑派の政党が「反ユーロ」「反緊縮」、あるいは「反移民・外国人」「反イスラム」の主張を掲げて大きく得票数を伸ばした。フランスの「国民戦線」、デンマークの「デンマーク国民党」、イギリスの「英国独立党」、ギリシャの「急進左派連合」など、右派・左派関係なく躍進している。このようなEU懐疑派の躍進はどんな要因によって説明され、またどのような影響を及ぼしうるだろうか。一つ或いは複数の、国や地域を例に取りながら、具体的に論じなさい。

10. ヨーロッパにおける近代以降の「家族」の変化について、具体例を挙げて論じなさい。

平成27年度（2015年度）大学院国際言語文化研究科博士課程（前期課程）  
国際多元文化専攻 入学試験問題

試験科目： 論述

第4ページ

ジェンダー論講座

- 1 1. 「女性と自然環境」をテーマに論じなさい。ただし、これまでのフェミニズムの成果を必ず踏まえること。
- 1 2. 格差解消を目的とする「積極的差別是正措置」、すなわちアファーマティブ・アクション (affirmative action)、ポジティブ・アクション (positive action) と呼ばれる一連の措置がある。それらの中には、例えば管理職など、いわゆる上級職における一定比率を女性に割り当てる（クォータ制）、あるいは同等の業績の男女がいた場合、女性を優先的に登用する、といった方策がある。ジェンダーに関わるこれらの方策について、あなたの考えを書きなさい。

メディアプロフェッショナルコース

- 1 3. 「国境なき記者団」(Reporters Without Borders) の報道自由度指標に基づく報道の自由ランキングによると、日本は2010年に11位だったのが、2011-12年には22位、2013年には53位と急落し、2014年には59位だった。アメリカのNGO「フリーダムハウス」(Freedom House) による報道の自由ランキングでも、日本は2010年と2011年には32位だったのが、2012年に37位、2013年に40位、2014年には42位と、順位を落とし続けている。  
報道の自由に関するこうした評価の落ち込みは、どのような原因から生じ、日本に暮らしている人々にどのような問題をもたらすか。さらに、そうした問題の解消に向けて、どのような手段が考えられるか、論じなさい。
- 1 4. 現代の世界において、多くの国は、多様な人種、民族、宗教、言語、文化などを抱えるようになった。こうした「多様性」を、放送や新聞の中にどのように反映させていくのが、大きな課題となっている。この課題の解決に向けてどのような取り組みが考えられるのか、述べなさい。